

「石田三成の子孫は聾俳人？」

桜井 強

日本豊史学会事務局長・日本手話研究所運営委員

1. はじめに

日本豊史学会の伊藤政雄会長著「歴史の中のろうあ者」という本で『聴障の俳人・杉山杉風』を読んで気になった点があって掘り起こして検証したいと思った次第である。



『聴障の俳人・杉山杉風』
111 ページ～113 ページ
参照されたいし。
近代出版 本体 2,300 円

2. 杉山家の先祖ルーツ調査について

インターネットの検索ツール（グーグル）で「杉山杉風」というキーワードで検索を入力してみた。1,150 件ほど出て来たが、更にキーワードの検索を絞ってみて「津軽杉山家」という言葉が出た。

3. 「津軽杉山家」ってどういう家系なのか？

津軽杉山家とは青森県弘前市の昔、津軽藩に仕えた家老「杉山家由緒書」に触れてあった。石田三成の次男・杉山源吾であると判明した。

4. 杉山源吾(すぎやまげんご)について

杉山源吾の正体を知る為の手掛かり材料としていくつかの史料や文献を漁ってみる事にした。白川亨著の「石田三成の生涯」「石田三成とその一族」2冊を借りて読んでみた。杉山源吾の正体は次の通りです。

杉山源吾（1589～1641年 53歳没）

石田三成の次男。石田隼人正重成、俊成。関ヶ原合戦後、津轻信建によって若狭経由で津軽まで逃がされる。津軽では杉山源吾と名乗り、深味郷で十年ほど隠棲。そして大館に移り、正式に津軽家臣となった。津軽三代信義の母は三成の娘であり、北政所の養女となった辰姫である。これまで北政所と三成は対立していたとされたが、辰姫を養女にするな

ど関係は良好だった。慶長十六年、弘前城完成時には杉山源吾が大坂から持参した秀吉座像が祀られた。没年は慶長十五年四月二十八日・二十二歳説があるが、これは隠棲の期間と一致するため幕府の目を偽る策と思われる。位牌には没年は不明ながらも四月八日に没したとあり、二十二歳説が正確ではないことを証明している。最有力なのは寛永十八年四月八日・五十三歳説である。法名「道光院殿 覚翁了閑居士」。長男の八兵衛吉成は信枚異母妹を娶り家老となった。吉成の一宇は三成に通じ、千三百石を知行する。子孫は重臣として津軽家に仕え、家系は明治に至る。杉山源吾には次男もおり、石田掃部を名乗っている。五百石で津軽家に仕えた。

5. 杉山杉風(すぎやま・さんぶう)の本名は？

杉山杉風は、俳号である為、本名は杉山市兵衛。通称の名を持つ。「鯉屋市兵衛」「鯉屋藤左衛門」「鯉屋杉風」
杉風の父は、杉山市兵衛賢永である。俳号は仙風。



正保 4 年(1647)生まれ
享保 17 年(1732)死去
享年 86 歳

6. 杉山杉風の職業は？について

「鯉屋」の屋号で幕府御用の魚問屋を営んでいた。幕府への納魚が大きな負担となってきたため、宝永二年（1705 年）に魚問屋への助成の意味から 11ヶ所の拝借地が与えられた。拝借地の地代や家賃収入の上がりて魚問屋らの負担を補おうという狙いだったが、結局それでも根本的な解決にはならず、納魚への不満は絶えません。そこで、南町奉行大岡越前守の裁断により、享保四年（1719 年）、これまでの

直納（じきのう）による納魚制度を廃して、「請負人制度」に変えるという大改革が行われました。



7. 仮説

杉山杉風の先祖は、石田三成の生き延びた一族である上、長い間、沈黙を守り抜いた事もあり得る。師匠である松尾芭蕉と接点の疑問を解けた。芭蕉の先祖は、天正伊賀の乱による織田信長に殺された松尾家であったが故に生き延びた松尾家の末裔である。芭蕉が「みちのく」という風土は紛れなく敗れた人々の風土である。だから東北の人々に愛着があった。東北の人には優しいし、敗れた人々が集まっている所の土地柄。芭蕉は徳川家康を嫌った為もある。杉風の先祖の秘密を知り、何らかの因縁だろうと思われる。

8. 検証

津軽杉山家の家系を見てみると「石田三成の生涯」と「石田三成とその一族」の『杉山系図』の家系記録によれば（杉山八兵衛）とか（杉山嘉兵衛）とか（杉山勘左衛門）とか（弘前の杉山家の分家であり、その流れ陸奥横浜に移った（杉山源五郎）もある。杉風の本名は市兵衛だが、つまり何々兵衛という名前が濃い為、津軽杉山家の継承による可能性が高いと考えられる。

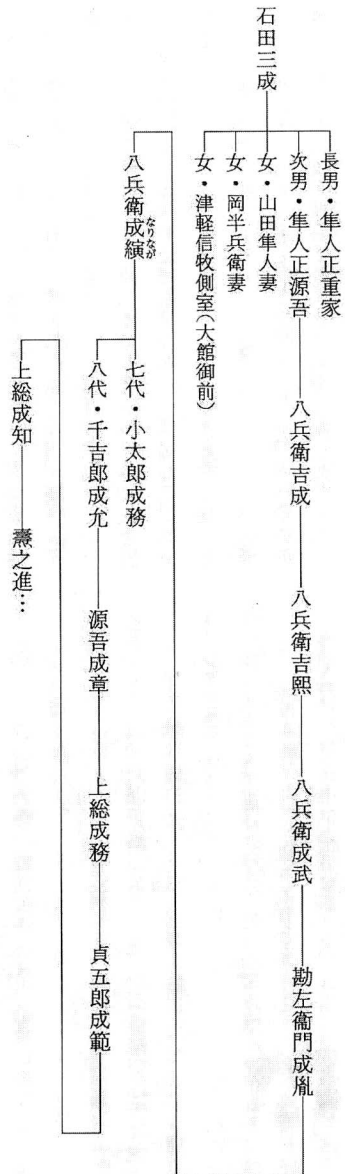
9. 課題

杉山杉風のお墓は、東京都世田谷区宮坂の伏見山成勝寺にある。津軽杉山家なのかどうか手探りを始めたいと思う。その検証を通して結果につながるのであれば良いと考えます。杉山杉風の子孫は、女優の山口智子さんが杉風の継承だった。「ホテル鯉保」には「杉風」という名の和風レストランがあり、同ホテルの案内書に「日本料理 "杉風"は、鯉保の先祖である鯉屋藤左衛門の俳号により名付けました。藤左衛門は江戸寛文の頃、屋号を鯉屋と称し幕府と他の諸侯に魚類を納めるお納屋を営み、俳聖芭蕉が江戸に来た当初から師弟の関係をもち、芭蕉の生活

面における支持者として深いゆかりをもち、蕉門の高弟として高く評価されております」と書かれている。

【参考文献】

- 石田三成の生涯 白川亨 新人物往来社
 石田三成とその一族 白川亨 新人物往来社
 歴史の中のろうあ者 伊藤政雄 近代出版



津軽杉山家の家系図